



■ AS (autonomous system, 自律システム)

同じポリシールーティングで運用されるネットワークシステム。インターネットは、複数のASの集合体である。

■ BGP, BGP4 (Border Gateway Protocol)

AS間でのルーティング情報を交換するEGP (Exterior Gateway Protocol) の1つ。ポリシールーティングが容易に実現できる、ルーティングループの検出が容易、ルーティング情報の集約などの特徴を持つ。

EGPとして標準的に使用されており、現在、インターネットバックボーン上でルーティング情報を交換する際に使用されている。現行のバージョン番号の4を後ろにつけて、BGP4 (BGP version 4) と呼ぶこともある。

■ IX (Internet eXchange)

インターネットを構成する複数のネットワークを相互接続する中継点。日本国内の主要なIXとしては、WIDEプロジェクトが運用するNSPIXP-1/2/3、商用のJPIX、MEXなどがある。

■ OSPF (Open Shortest Path First)

AS内において、ルータ同士がルーティング情報を交換するIGP (Interior Gateway Protocol) の1つ。ノード間の通信コストを基にしたルーティングができるなどの特徴を持つ。ほかのIGPとしてRIP (Routing Information Protocol) があるが、OSPFはRIPに比べて大規模なネットワークに対応している。

■ S/MIME (Secure Multipurpose Internet Mail Extensions)

RSA Data Security社が提案する、暗号化標準規格のPKCS (Public-Key Cryptography Standards) を利用してデジタル署名や暗号化を施すための規格の1つ。

第三者機関である認証局

により保証された公開鍵を用

■ SSL (Secure Socket Layer)

Netscape Communications社が提案する、クライアントサーバ間の通信の暗号化、認証、改竄防止を提供するセキュリティを保持するためのプロトコル。OSI参照モデルのセッション層に位置し、アプリケーション層から透過的であり汎用性が高いため広く普及している。

■ VPN (Virtual Private Network, 仮想私設網)

公衆網上に擬似的に構築し、自前で構築したネットワークと同様の使い勝手を提供するネットワーク。離れたLAN同士をインターネットで接続し、セキュリティを確保したネットワーク形態もVPNと呼ぶ。一般に自前で専用線などを準備するよりコスト面で有利である。

■ WDM (Wavelength Division Multiplexing)

異なる波長の搬送波を用いることにより、複数のデータを1芯の光ファイバーに多重化する方式 (情報処理学会誌1999年11月号、連載「コンピュータと通信」、pp.1128-1131を参照ください)。

■ X.509

ITUやISOで標準化され、世界で最も広く用いられている利用者の公開鍵や認証機関について記載したデジタル証明書フォーマットを定めている勧告。

■ 第一種電気通信事業者、第二種電気通信事業者

第一種電気通信事業者は、電気通信サービスを提供する電気通信事業者のうち、自ら通信回線設備を設置、運営し通信サービスを提供する事業者を指す。また、第一種電気通信事業者から通信回線設備を借り受け、通信サービスを提供する事業者が第二種電気通信事業者である。

■ ダークファイバー

敷設はされているが利用されていない光ファイバー網を指す。利用されていないため、光が通ってあらず暗いままのため、このように呼ばれる。

単語帳

